

執筆者紹介（執筆順、*は編者）

*片山慶隆（かたやま・よしたか） はしがき、序章、第4章

1975年 神奈川県生まれ。
2005年 一橋大学大学院法学研究科博士後期課程修了。博士（法学）。
現在 関西外国語大学英語国際学部教授。
著作 『小村寿太郎——近代日本外交の体現者』中央公論新社（中公新書）、2011年。
『大石正巳の奮闘——自由民権から政党政治へ』創元社、2025年。

後藤敦史（ごとう・あつし） 第1章

1982年 福岡県生まれ。
2010年 大阪大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。博士（文学）。
現在 京都橘大学文学部准教授。
著作 『阿部正弘——挙国体制で黒船来航に立ち向かった老中』戎光祥出版、2022年。
『海の幕末日本——測量・海図・海防』人文書院、2026年。

森田吉彦（もりた・よしひこ） 第2章

1973年 兵庫県生まれ。
2008年 京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程修了。博士（人間・環境学）。
現在 大阪観光大学観光学部教授。
著作 『評伝 若泉敬——愛国の密使』文藝春秋（文春新書）、2011年。
『兵学者吉田松陰——戦略・情報・文明』ウェッジ、2011年。

鈴木 悠（すずき・ゆう） 第3章

1985年 東京都生まれ。
2016年 英国ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス Ph.D（International History）
現在 東京大学大学院総合文化研究科准教授（原稿執筆時は東海大学政治経済学部政治学科特任講師）。
著作 *Britain, Japan and China, 1876-1895: East Asian International Relations before the First Sino-Japanese War*, Routledge, 2021.
翻訳 E.M.サトウ『一外交官の見た明治維新』講談社（講談社学術文庫）、2021年。

中谷直司（なかたに・ただし） 第5章

1978年 奈良県生まれ。
2008年 同志社大学大学院法学研究科博士課程後期課程修了。博士（政治学）。
現在 帝京大学法学部教授。
著作 『強いアメリカと弱いアメリカの狭間で——第一次世界大戦後の東アジア秩序をめぐる日米英関係』千倉書房、2016年。
『国際秩序のなかの「一帯一路」——歴史、地域・国際関係、領域からの視座』共著、法律文化社、2025年。

西田敏宏（にしだ・としひろ） 第6章

1975年 京都府生まれ。

2004年 京都大学大学院法学研究科博士後期課程修了。博士（法学）。

現在 嵯山女学園大学現代マネジメント学部准教授。

著作 『日本政治史の中のリーダーたち——明治維新から敗戦後の秩序変容まで』 共著、京都大学学術出版会、2018年。

『もうひとつの戦後史——第一次世界大戦後の日本・アジア・太平洋』 共著、千倉書房、2019年。

樋口真魚（ひぐち・まお） 第7章

1988年 栃木県生まれ。

2016年 東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了。博士（文学）。

現在 成蹊大学文学部准教授。

著作 『国際連盟と日本外交——集団安全保障の「再発見」』 東京大学出版会、2021年。

『昭和史研究の最前線——大衆・軍部・マスコミ、戦争への道』 共著、朝日新聞出版社（朝日新書）、2022年。

森 茂樹（もり・しげき） 第8章

1966年 東京都生まれ。

2000年 一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程単位取得退学。修士（社会学）。

現在 久留米大学法学部教授。

著作 『大橋忠一関係文書』 共編著、現代史料出版、2014年。

『戦争と軍隊の政治社会史』 共著、大月書店、2021年。

矢嶋 光（やじま・あきら） 第9章

1981年 滋賀県生まれ。

2014年 大阪大学大学院法学研究科博士後期課程修了。博士（法学）。

現在 名城大学法学部准教授。

著作 『芦田均と日本外交——連盟外交から日米同盟へ』 吉川弘文館、2019年。

『戦後保守政治家の群像——自民党の変容と多様性』 共著、ミネルヴァ書房、2023年。

池田慎太郎（いけだ・しんたろう） 第10章

1973年 愛知県生まれ。

2001年 筑波大学大学院博士課程社会科学研究科修了。博士（法学）。

現在 関西大学法学部教授。

著作 『日米同盟の政治史——アリソン駐日大使と「1955年体制」の成立』 国際書院、2004年。

『現代日本政治史2 独立完成への苦闘 1952～1960』 吉川弘文館、2012年。

神田豊隆（かんだ・ゆたか） 第11章

1978年 群馬県生まれ。

2010年 東京大学大学院総合文化研究科博士後期課程修了。博士（学術）。

現在 新潟大学法学部教授。

著作 『冷戦構造の変容と日本の対中外交——二つの秩序観 1960–1972』岩波書店、2012年。
『日本社会党の講和論争とコミスコ・社会主義インターナショナル——冷戦下の『社会民主主義外交』をめぐる葛藤』『国際政治』209号、2023年。

武田 悠（たけだ・ゆう） 第12章

1982年 岡山県生まれ。

2011年 筑波大学大学院人文社会科学系研究科一貫制博士課程修了。博士（国際政治経済学）。

現在 広島市立大学国際学部准教授。

著作 『「経済大国」日本の対米協調——安保・経済・原子力をめぐる試行錯誤、1975～1981年』ミネルヴァ書房、2015年。
『日本の原子力外交——資源小国70年の苦闘』中央公論新社（中公叢書）、2018年。

山口 航（やまぐち・わたる） 第13章

1985年 兵庫県生まれ。

2014年 同志社大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得満期退学。博士（政治学）。

現在 関西大学政策創造学部准教授。

著作 『冷戦終焉期の日米関係——分化する総合安全保障』吉川弘文館、2023年。
『日米首脳会談——政治指導者たちと同盟の70年』中央公論新社（中公新書）、2024年。

村上友章（むらかみ・ともあき） 第14章

1974年 兵庫県生まれ。

2004年 神戸大学大学院国際協力研究科博士後期課程修了。博士（政治学）。

現在 流通科学大学経済学部准教授。

著作 『冷戦終結後の安全保障理事会と日本——『失われた20年』の国連外交』『国際安全保障』43巻4号、2016年。
『国連安保理非常任理事国としての日本のカンボジア外交——日タイ工作と決議七九二号』『国際政治』212号、2024年。

楠 綾子（くすのき・あやこ） 第15章

1973年 兵庫県生まれ。

2004年 神戸大学大学院法学研究科博士後期課程修了。博士（政治学）。

現在 国際日本文化研究センター教授。

著作 『吉田茂と安全保障政策の形成——日米の構想とその相互作用、1943～1952年』ミネルヴァ書房、2009年。
『多数講和と寛大な講和——日本の構想と選択』川島真・細谷雄一編『サンフランシスコ講和と東アジア』東京大学出版会、2022年。